

第30回

ごはん・お米と わたし

作文・図画コンクール入賞作品集



内閣総理大臣賞
山形市立第九中学校3年 三浦 潤平さん



全国農業協同組合中央会会長賞
山形市立第九中学校3年 今野 桃子さん

平成18年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

会長 遠藤芳雄

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心から御礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

第三十回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文三一〇点、図画一〇三一点もの力作を応募いただき、全国コンクールにおいて、作文・図画両部門で内閣総理大臣賞、図画三部で全中会長賞を受賞するという素晴らしい成績を修めました。また、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農協中央会賞をはじめ各賞を選考いただいたところです。これは、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次世代の子供たちにごはん食や稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般とごはん食が健康に結びつくことを見直してもらい、農業が果たす多面的な働きとごはん食の重要性を再認識し、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施しております。

今回の皆さんの作品は、ごはん・お米を通じて家族への思いやり、家族や友達と食べるごはんのおいしさ・うれしさ、また、ごはん食や稲作農業の果たす役割の大きさを知ったことなどが、素直に表現されていました。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦勞や努力

を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。

また、家族を大切に作る心、自然を大切に作る心、生き物すべての命を大切に作る心を育み、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で多くの大切なものを失いつつあります。食生活の面からみると食料自給率は四〇％で、先進国の中では最低の水準にあります。また、朝食を食べないなど、特に若い世代を中心とした食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられ、これらは生活習慣病の増大や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題とされております。

かかる中、平成十七年六月に食育基本法が制定され、食育を国民運動として推進していくこととなりました。私たちJAグループは、小・中学校をはじめとする食農教育の取り組みに対して、それぞれの地域の特徴を活かしながら、引き続き最大限のご支援を申し上げます。ぜひ、地元のJAにお声掛けいただけますようお願い申し上げます。

また、JAグループでは、日本人の主食である米をはじめとして、国内で生産できる食料は国内で生産することを基本に、皆様に安全・安心な農畜産物を提供できるよう、より一層の努力をしております。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただけますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

第30回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

全国審査における入賞者

○内閣総理大臣賞

(作文部門) 伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 3年
(図画部門) 三浦 潤平 山形市立第九中学校 3年

○全国農業協同組合中央会会長賞

(図画3部) 今野 桃子 山形市立第九中学校 3年

○優秀賞

(作文2部) 治部あかね 東根市立東根中部小学校 5年
(作文3部) 齋藤 那千 鶴岡市立朝日中学校 3年
(図画1部) 會田 次郎 山形市立南小学校 3年
(図画2部) 小野寺百茄 鶴岡市立朝日小学校 6年

○学校奨励賞

鶴岡市立朝日小学校 山形市立第九中学校

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 阿部拓悠真 庄内町立余目第二小学校 3年
山形県農協中央会会長賞 後藤 剛 高島町立和田小学校 2年
優秀賞 渡部 由夢 高島町立糠野目小学校 1年
阿部 理沙 鶴岡市立櫛引東小学校櫛代分校 1年
高橋 恵美 最上町立赤倉小学校 1年
阿部 貴之 鶴岡市立櫛引東小学校櫛代分校 2年
齋藤 蓮奈 鶴岡市立羽黒第二小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 治部あかね 東根市立東根中部小学校 5年
山形県農協中央会会長賞 渡部 愛 米沢市立関小学校 6年
優秀賞 佐藤 彩絵 鶴岡市立朝日小学校 4年
菅野明日香 高島町立高島小学校 4年
小林 桜子 山形市立西小学校 5年
有賀この美 鶴岡市立朝日小学校 5年
佐藤 誠 庄内町立余目第二小学校 5年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 齋藤 那千 鶴岡市立朝日中学校 3年
山形県農協中央会会長賞 佐藤 麻衣 山形市立山寺中学校 1年
優秀賞 山口 真盛 鶴岡市立温海中学校 1年
川田美沙樹 山形市立第三中学校 2年
今野 若奈 鶴岡市立鶴岡第三中学校 2年
榎本有紀子 鶴岡市立温海中学校 3年
富樫 美穂 南陽市立中川中学校 3年

●学校奨励賞

庄内町立余目第二小学校
鶴岡市立朝日中学校

図画部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 會田 次郎 山形市立南小学校 3年
山形県農協中央会会長賞 大類 海斗 尾花沢市立名木沢小学校 2年
優秀賞 星川 瑞生 山形県立聾学校小学部 1年
石山 詩穂 尾花沢市立高橋小学校 1年
新田 尚太 山形市立南山形小学校 2年
笹原浩太郎 尾花沢市立上柳小学校 2年
佐藤つぐみ 鶴岡市立西郷小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 小野寺百茄 鶴岡市立朝日小学校 6年
山形県農協中央会会長賞 浜田ひかり 南陽市立梨郷小学校 5年
優秀賞 加賀 東杜 大石田町立大石田小学校 4年
溝越 舞子 尾花沢市立寺内小学校 5年
藤谷 睦姫 鶴岡市立温海小学校 5年
鈴木 潤 尾花沢市立高橋小学校 6年
有路 杏子 尾花沢市立常盤小学校 6年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 日下部仁美 米沢市立第六中学校 2年
山形県農協中央会会長賞 木村 友美 山形市立金井中学校 2年
優秀賞 長岡 佑佳 山形市立金井中学校 1年
遠藤 瑞紀 山形市立第二中学校 2年
伊藤 茜 山形市立金井中学校 2年
神田 涼真 米沢市立第六中学校 2年
佐藤 勇太 山形県立鶴岡養護学校中学部 3年

●学校奨励賞

尾花沢市立高橋小学校
山形市立金井中学校

内閣総理大臣賞



「実りの秋」

山形市立第九中学校三年

三 浦 潤 平

全国農業協同組合中央会会長賞



「田植えの時期」

山形市立第九中学校三年

今野桃子



山形市立南小学校三年

會 田 次 郎

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「流れおちる米」



尾花沢市立名木沢小学校二年

大 類 海 斗

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「たのしい いねかり」

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「早く、大きくならないかな」

鶴岡市立朝日小学校六年

小野寺 百 茄



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「楽しいねかり」

南陽市立梨郷小学校五年

浜 田 ひかり



■山形県知事賞■

「学校での田植え」

米沢市立第六中学校二年

日下部 仁美



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「二休み」

山形市立金井中学校二年

木村 友美



作文部門 入賞作品

内閣総理大臣賞

「夏の、暑い日にぼくは見た」

鶴岡市立朝日小学校三年 伊藤浩司

「じいちゃん本当だ。花さいっだ。」

じいちゃんが大事に育てているいねが、太陽をいっぱいに浴びて、今年の夏も大きくなりました。ぼくは、なえうえのころから手伝いをして、消どくをしたり、かりとりのいねはこびをしたりしていました。

「お米って、いねの実だから、花もさぐなだぞ。見でみっが。」

そう言われたぼくは、八月の暑い、夏休みのある日、田んぼに出てみたのです。

花は、いねのほが出はじめると、先たんの方からさいていきます。いつも見なれている、いねのからが半分にわれています。あ、これでは、米がだめなってしまう。

そう思いながら近づいてよく見てみると、うすい黄色の花びらが見えました。中からは、おしべやめしべも出ているようです。（花だったのか。米も、こうやって花をさかせて実っていくんだなあ。初めてじっくり見た。続けて見てみよう。）そう思って、かんさつすることにしました。



一本のほの花がさきおわるまで、三日から四日ぐらいかかります。花がおおると、それからからをとじて実り始めました。

「こうじ、これ、しぼってみれ。」

じいちゃんに言われて、みをしぼると中から、牛にゆうのようなものが出てきました。これが、だんだんかたくなつて米になるのだそうです。今は、花をさかせてピン、とつぶているいねだけと、この実がみのるにつれて、つりぎおのようにたれてくるのです。

（このもみの中で、知らない間にこんなことがおきているんだ。のぞいてみたいなあ。）
と考えていると、じいちゃんが、

「これが、のりみたいになってくると、すずめが食べに来る。だから糸をはるんだぞ。」

と言いました。そうだったのか。今年は、糸はりも手つだって、実りを待とうと思います。

■山形県知事賞■

「なめたみたいなぼくの茶わん」

庄内町立余目第二小学校三年 阿部拓悠真

「ひゅうま、すごいのお、おめの茶わんだばなめたみで
いだのお。」

お母さんがごはんをたべたあとぼくの茶わんを見て言
います。

「だって、ぼく、ごはん大すきなもの。おいしい米つぶ
一つだって、もつたいたいもの。」

ぼくはごはんがとってもすきです。白いごはんも、も
ちろんすきですが、ふりかけごはんや、やきにくどん、
なつとうごはんもすきです。なつとうごばんなら、2は
いは食べられます。

だからお母さんは、ぼくのすきなごはんをいつもおい
しくたいてくれます。ごはんがたけた時に、ふたをあけ
ると、お米のつぶの一つ一つが、ぴかぴかしながら、
お米が、

「ぼくを食べてごらん。おいしいぞ。」

と言いながら、ぼくのはなに、においつきのゆげをかけ
てきます。

ぼくは、つい、そのお米をつまみぐいしたくなります。
「うまそう。早くごはんにして。」

だからぼくの茶わんには米つぶ一つのこらないのです。

ぼくの茶わんがなめたみたいにきれいなのは、もう一
つ理由があります。

二年生のべん強で、のうかの人からお米づくりについ
て教えてもらいました。その時に、

「一つぶの米でも、秋にみのつて、食べられるようにな
るためには、八十八の手間がかかっているんだよ。だか
ら米という漢字ができたんだよ。」

と聞きました。

ぼくの大すきなごはんは、一つぶ一つぶにのうかの人
の八十八の手間がかかっているのです。だから、おいし
くなると思います。

茶わんの中のごはん一つぶ一つぶが光ってぼくを見て
います。だから、今日のぼくの茶わんも、なめたみたい
につるつるです。

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「ぼくのゆめ」

高畠町立和田小学校二年 後藤 剛

ぼくは、白いごはんが大好きです。ほかほかのごはんがあれば、おかずなんてなくてもへいきです。

ぼくのおとうさんは、コシヒカリをつくっています。ぼくは、今年、タネうえを手つだいました。きかいをくるくるまわして、なえばこに土を入れてみたけど、じょうずにできませんでした。やっぱりおとうさんみたいにはいきません。

おとうさんもおかあさんも、いっしょうけんめいに米作りのしごとをしているので、ぼくたちは毎日おいしいごはんを食べられます。でも、弟たちは、ときどきごはんを食べなかつたりのこしたりします。すると、おかあさんが、

「おとうさんとおかあさんが、いっしょうけんめいにくつたんだよ。それに、ごはんを食べられなくて、こまっ

ている人もいるのに、もつたいない。」

と言います。ぼくは、米作りがたいへんなことを知っているから、そんなことはしません。

ぼくは、田んぼのしごとはまだへたくそだけど、ごはんをたくことならじしんがあります。ぼくの家は七人家ぞくで、毎日、ぼくが八ごうをたきます。さいしよは、おかあさんに教えてもらって、こめをとぐときにこめをながしてしまったこともありました。でも、今は一人でこめとぎをして水のりようもはかれるようになりました。ぼくががたいたごはんを、みんながおいしいと言って食べてくれることがうれしくて、毎日つづけています。ときどき水がつめたいけど、がんばってこれからもつづけていきたいです。

もつともつと、田んぼのしごとも手つだって、大きくなったら、おとうさんのようにおいしいおこめをつくりたいです。自分でつくったおこめを、自分でたいて、家ぞくに食べさせてあげる、これがぼくのゆめです。

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「お米という私達の大切な食料」

東根市立東根中部小学校五年 治部あかね

「今は昔とくらべて、食べ物がほうふになったものだ。」
お昼ごはんを食べている時、おばあちゃんがぼそつとつぶやいた。私はなんだか気になって、

「じゃ、昔はどうだったの？」
と、聞いた。すると、おばあちゃんはある一つの話をおかせてくれた。

「昔は今みたいに食べ物を食べることができなかつたんだ。とくに米はなくて、フキやかぼちゃをまぜてごはんをふやしていた。今から六十年ぐらい前、日本とアメリカが戦争をしていた頃、わかいしゅといって、六年生を卒業すると、お金でかわれて、大きな農家に働きに行っていた。」

おばあちゃんは少しだまってから、また話しました。
「ある男の子の家には、病気の母親と妹たちがいた。そ

の男の子は主人の米びつから米をぬすんでいたんだ。」
私はどきつとした。

米のない時代、ごはんも食べられない時代があったんだ。おなかいっぱいごはんを食べられる自分がどれだけ幸せなんだろうと、しみじみ思った。

いくらあやまつても、とうとうゆるしてもらえず、男の子は家を追いだされてしまったという。

私は社会の米作りの勉強で、工夫や努力をしているということを知ったけれど、昔の人の生活なんて、ぜんぜん知らなかった。

給食の時間、ごはんをへらしたり、残したりしている自分はずかしくなってきた。

私はよく、
「あかね、育ちざかりなんだから、しっかりごはんを食べなさい。」
と、お母さんから言われる。でも、すぐに、

「やだ、太るから。」
と言って、残している。

おばあちゃん達の頃は、食べたくても、食べられなかったのに、太るとか、おかずがきらいだからと言っていた

自分が、どんなにわがまま言っていたんだろうと思えた。

私は今、五年生。あの米をとってしまった男の子は当時私より一つだけ年上だけだったのに、一家を支える大黒柱としてがんばっていた。

私は、あの男の子のように働くことはできないけれど、ごはんを残さず食べ、弟にも言い聞かせることが出来ます。自分に出来ることをして、昔の人に負けないくらい、お米を大切にしていきたいと思います。

おばあちゃんの話聞いて、自分の生活を見直すことが出来て、ほんとうによかったです。

お米という私達の大切な食料を少しでもむだにしないように、これからがんばっていききたいと思います。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「父に学ぶチャレンジ米作り」

米沢市立関小学校六年 渡部 愛

私の学校では春と秋に田植えといね刈りをしています。近くの家の田んぼをかりて、毎年しています。全校生で田植えをして、五・六年生で草取りをし、秋にみんなでいね刈りをします。そのお米で十一月にもちつきをします。きねを持って、みんなでついたおもちはとてもおいしいです。

この活動をしてきて、疑問に思ったことは、田植えといね刈りの間、何をしているかです。草取りの他に何をしているのかなと思いました。

私の家は農家でお米を作っています。父は、水の管理や、消毒をしています。父が、一番気をつけているのが農薬をあまり使わないことです。父は、人間の体にえいきょうのある農薬をできるだけ少なくして、食べた人が、「おいしい」と思えるお米を作りたいそうです。私は、

すごいなと思いました。でも、お米を作っている時の父は、時々なやんでいます。無農薬米を作るのが大変だからです。たくさんなやんでいろいろな方法をためしています。祖父は、

「長年の経験からして、こっちの方がいいぞ。」と、言いますが、父は、

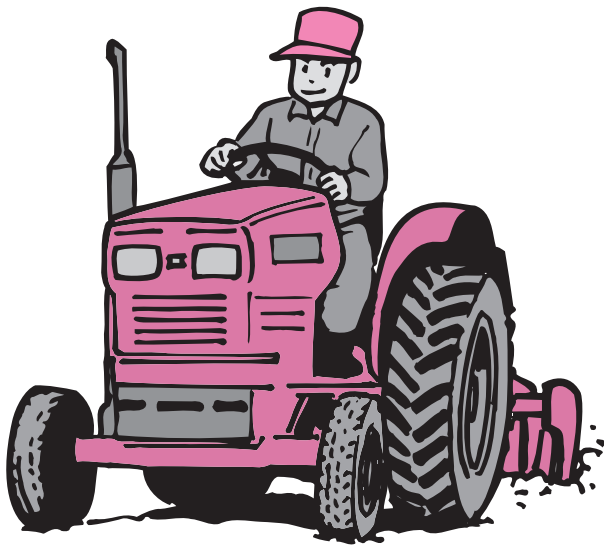
「いいよ。オレ、いろいろチャレンジしてみるんだよ。そうしたら、親父よりいい方法が見つかるかもしれないからな。」

と、言います。なやみながら、いろいろチャレンジする父はすごいと思います。でも、私は、失敗したらどうするんだろうと少し心配になります。しかし、父は、失敗をこわがらず、次はどうしようかと考えます。私は、難しいことをやるとき、失敗することがこわくて、自分からやるぞという気持ちになれないことがあります。でも、父は、失敗しても立ち上がります。そして、成功したときは、すごくうれしそうな顔をします。私までうれしくなります。

正直に言うと、父は、どんな仕事の時よりも、米作りをしている方が笑顔が多くて、とてもキラキラかがやい

て見えます。私もあんなふうキラキラかがやく人になりたいです。失敗をおそれず、いろいろなことにチャレンジできる人になりたいです。父を目指す事が私の目標です。

私が大人になったら、できるかどうかわかりませんが、米作りをしたいと思います。父に少し教えてもらおうだけで、あとは私一人で一からやるつもりです。女だからできないなんてあきらめません。精一ぱいがんばって、時には、父に助けてもらいながらやっていきます。そして、いつか父以上のおいしいお米を作ってみせます。私は、米作りに終わりは無いと思います。父のように毎年毎年工夫を加えて、だれにでも“おいしい”と思われような、そして安全なお米を作りつづけていきたいと思いません。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「私の目標」

鶴岡市立朝日中学校三年 齋藤 那千

「あつ、今日のごはんはちよつと固いなあ。」「よし。今日はおいしくたけた。」これは、毎朝私がごはんを食べた時に思うことです。

私の家は農家ではありません。ですが我が家の家族はお米が大好きです。ほぼ毎日3食白米におみそ汁がつく、和食派でもあります。そのお米が大好きで、味にも少しうるさい家族の中で、私がお米を炊くのをまかされるようになったのは、中学二年の夏休みからでした。

きつかけは私の料理好きな性格でした。食べるのも好きだけど、作るのもっと好き。そんな私が台所に立つ日はめずらしくありません。その日も、「お昼、何たべっかなあー。」と考えながら台所でブラブラしていると、祖母に、

「那千、米炊いでくれっちゃー。」

といわれました。その時の私の第一声は、

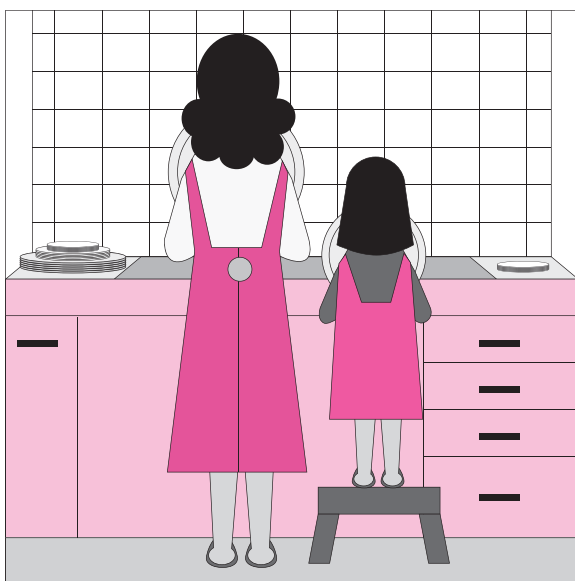
「えー。めんどくせーし。」

というもの。「料理好き」とはいうものの、めんどくさいことは嫌いな私。「米をとぐ」という作業は、今までの祖母を見ていても、何回も水を捨て、またとき、水を捨てるという単調な事の繰り返し。私には無理。と思っていた事の一つでもありました。その時も断わろう、と思っていたのですが、私がひまなこともあり、その日のお米は、すべて私が炊くことになってしまいました。さすがに自分でも、「できつかなあ。」という不安もありましたが、とりあえず、やってみることにしました。

戸惑いながらも計量カップでお米の量を計り、ボウルに入れた炊く前のお米は初めて見る物のように感じました。毎日自分の目で見て、自分の手で自分の口にはこぶ「ご飯」としてのお米と、今、目の前にある「白米」という姿のお米。同じものはずなのに、自分の目に映るのは全く違うモノ。「これが、なんであんなになんや。」という疑問が私の頭の中にありました。とりあえず、お米をとき始めた私。あの祖母がやっていた単調な作業です。しかし、この目で見たお米の変化は、私をとても

驚かせました。あきらかに色がとぐ前と違うのです。これは実際にやった人にしかわかりません。厳密には色ではなく、お米の透度が違うのです。最初はにごった白色なのに、といで水を捨てるごとに色がうすくなり、透明感が出てくるのです。それが色の違いのようにはつきりしているから驚きです。それを見た私は、「楽しい!!」という気持ちになりました。その日からお米をとぐのは私の担当です。

自分が嫌だと思っていたことが、楽しいと感じられるようになることは、とても大きな変化です。私にその変化を気付かせてくれたのは祖母と「お米」です。今の私があるのは、この2つがあるからであり、これからの私を作っていくのは、私自身と、これまでの私。その中にある「お米」という大切な一つの存在を感じながら、生きていけることは、最高に幸せなのだということを、私自身かみしめて、私を生長させていく。これが今の私の目標です。この目標を達成できた時、私は今よりもっと「お米」を大切にしていって、おいしく食べられることでしょう。自分自身を生長させてくれるもと「お米」に感謝して、これからの「私」をつくっていききたいと思えます。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「あつたかいごはん」

山形市立山寺中学校一年 佐藤 麻衣

「やっぱり、おいしいなあ。」

私は、家のご飯を食べながら、いつもこう思う。

私の家のお米は、母の実家の祖父と祖母が作ってくれているのを食べている。祖父母が作ってくれるお米は、炊くと真っ白なご飯からほわっとあつたかい湯気が出てきて、食べるとほのかな甘みがあつて、とってもおいしい。私はこんなにおいしいお米が食べられて本当に幸せだと思う。

私の祖父母は、西川町に住んでいる。祖父母の田んぼは、一等地というお米が一番おいしく作れる場所にある。私もそこを見たことがあるが、田んぼの緑がとても美しく、印象深い所だ。

祖父母の田んぼは、一等地と言っても、土地がわずかなしかなく、米作りだけでは、生活が苦しかったと言う。

そこで、田んぼだけではなく、さくらんぼなどの果樹作りや、土木工事をして生活していたそうだった。

しかし、長年の無理がたたたり、祖父が、股関節を痛め、入院。股関節を人工股関節にした。そして、そのすぐ後、腎臓に癌が発見され、また入院することになった。まだ小さく、病気のことをよく知らなかった私は、

「大丈夫。」

と、ただ声をかけてあげるしかなかった。そう言うのと、祖父はいつも

「大丈夫だ、元気だよ。」

と、笑顔で答えてくれていた。そして、その言葉を聞いて、私は心のどこかでいつも安心していったのだ。

祖父は、リハビリのかいあつて、無事に退院することが出来た。しかし、退院出来たは良いものの、前のように働けなくなり、土木工事やめ、米作りもしにくくなった。祖母も膝を痛めていたため、二人での米作りは、とても難しくなったのだ。

私は、二人はもう米作りや畑仕事をやめるんだと思っていた。体がついていけないのに、力仕事をするのは簡単なことではないからだ。しかし、祖父母は米作りをや

めなかった。やめないとと言っても、機械を使ったり近所の人たちに手伝ってもらったりして、米作りを続けている。私は、このことを聞いた時、祖父母の強い心に感動した。

ある時、母がこんなことを言った。

「もし、おじいちゃんとおばあちゃんが田んぼ、出来なくなったらどうしようね……。」「本当にそうだなと私は思った。

私がいつも食べているおいしいご飯。それは、祖父母の大変な苦勞から出来ている。この、いつものご飯が食べられなくなってしまったら……。

私には、この米作りはとても出来ないと思う。米は多くの経験と体力がなければ、大変なことだと、祖父母の経験から知ったからだ。私の家に分けてくれているお米も、家にやらないで、他の所に売ってしまえば高く売れるのになと思うと、祖父と祖母の真心が、ものすごく温かく感じられた。

今、私に出来ることは、祖父と祖母を手伝ってあげること、そして、「ありがとう」と言ってお米をあげることだと思う。おいしいお米をくれる、祖父と祖母へ。

「いただきます。」

今も、私はご飯を食べる。おじいちゃんとおばあちゃんの心のこもった、「あったかいごはん」を。



作文部門審査講評

山形県教育庁義務教育課指導主事 水戸部 修 治

第三十回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール作文部門には、県内六八校より、三一〇点の作品応募がありました。

全国審査最高賞の内閣総理大臣賞を受賞した、鶴岡市立朝日小学校三年生、伊藤浩司さんの作品「夏の、暑い日にぼくは見た」をはじめとして、優れた作品が数多く寄せられました。以下、県審査の結果について紹介します。

第一部（小学校一年生から三年生）

○「なめたみたいなのはくの茶わん」（庄内町立余目第二小学校三年・阿部拓悠真・県知事賞）は、一文を短くした切れの良い表現が光ります。「茶わんの中のごはん一つぶ一つぶが光ってぼくを見ています。」といった表現が読み手の心を引き付けます。また、二つの理由をあげて茶碗のご飯を一粒残らず食べることに結びつけていく組立でも素晴らしい、ご飯が大好きだという気持ちが強く伝わってくる作品です。

○「ぼくのゆめ」（高島町立和田小学校二年・後藤剛・県農協中央会長賞）は、家族の愛情に包まれて、ごはん・お米に対する夢を膨らませていく力強い作品です。種植えを手伝った体験を書き込むことよって、米作りの大変さを感じている様子をとても良く描き出しています。また、毎日家族七人分の八合の米とぎをすることが、最初は慣れなかったのに、家族みんながおいしいと言ってくれることで喜びが変わっていくという描写が心を打ちます。

第二部（小学校四年生から六年生）

○「お米という私達の大切な食料」（東根市立東根中部小学校五年・治部あかね）は、祖母から聞いた六〇年前の話によって、今の自分の生活を見直していく作品です。「じゃ、昔はどうだったの。」「おばあちゃんは少しだまってから、また話し出した。」といった叙述が見事で、読み手も一緒におばあちゃんの話に引き込んでいきます。主食であるお米の大切さを改めて認識したことが、丁寧に表現されています。

○「父に学ぶチャレンジ米作り」（米沢市立関小学校六年・渡部愛）

は、学校での米作り体験で感じた疑問をもとに、父の米作りを見たり聞いたりして感じたことを、素直な言葉で表現した作品です。悩んだり失敗したりしても立ち上がる父の姿を、祖父との会話や自分の思いとかかわらせながら表現することで一層いきいきと描いています。父の姿を通して抱いた米作りへの思いを強く感じさせる文章です。

第三部（中学校一年生から三年生）

○「私の目標」（鶴岡市立朝日中学校三年・齋藤那千）は、家でお米をとぐのを任せられた私が、何気ない日常の中で、祖母とのかかわりによって改めて米の存在を感じていく作品です。身近な米とぎの作業の中で、とぎ方によって米の色が変化したり透明度が増したりしていくことに気付き、米とぎの楽しさを感じていく様子が克明に描かれています。あたかも映画の映像のように、米とぎの際の米の音や粒の透明感が想像できる作品となっています。

○「あったかいごはん」（山形市立山寺中学校一年・佐藤麻衣）は、病氣と闘いながらも米作りを続ける祖父の姿に、感謝の心を表す温かみのある作品です。冒頭の「ほわっとあったかい湯気が出てきて、食べるほのかな甘みがあつて」といった、きめ細かい描写によって、ご飯のおいしさがありありと伝わってきます。祖父が病氣であるにもかかわらずそのようなおいしい米作りをやめなかったという文章構成が、祖父への強い思いを効果的に表しています。

県学校奨励賞は、庄内町立余目第二小学校と鶴岡市立朝日中学校が受賞しました。おめでとうございます。

文章で表現していくうちに、これまで体験したことや考えたことなどを改めて思い起こし、それらを自分の考えとして組み立て直すことができます。それはきっと、身近な「ごはん・お米」を見つめ直すことをとおして、家族との触れ合いや食の大切さについて考えを深めることにつながっていくでしょう。今後も、いのち輝く山形の子どもらしい、地に足のついた作品が多く寄せられることを願っております。

図画部門審査講評

山形市立高橋中学校校長 相 田 修

第三十回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画部門には、県内一校より、一〇三一点の作品応募がありました。その中から優れた作品を選び出す県審査を行いましたので、結果を紹介します。

第一部（小学校一年生から三年生）

○「流れおちる米」（山形市立南小学校三年・會田次郎・県知事賞）は、精米器にかけている米が出てくる様子を丁寧に表現しています。機械から出てくる米を見上げる目の動きや顔の表情、サラサラ落ちてくる米に手を差し出す指の一本一本をよく観察して描いており、お米を大切にしている心や、精米したばかりの米の温もりが伝わってくる作品です。水彩画の特徴を生かした色使いが見る人の目を引きつけます。

○「たのしい いねかり」（尾花沢市立名木沢小学校二年・大類海斗・県農協中央会会長賞）は、一生懸命稲刈りをしている様子を生き生きと表現しています。鎌を持つ手や稲をしっかり見て刈り取るうとしていた姿、顔つきをよく見て描いています。稲穂は、豊かな実りが伝わるように頭を垂れた様子で描かれており、収穫の喜びが伝わって来る作品に仕上がっています。

第二部（小学校四年生から六年生）

○「早く、大きくなりたいかな」（鶴岡市立朝日小学校六年・小野寺百茄・県知事賞）は、自分達が行った田植えの様子を生き生きとした木版画に表しています。苗を大事に扱いながら、慎重に田植えを進める二人の姿が見る人に伝わってきます。水に映る人物の影や服のしわなど、彫刻刀を使い分けながら見事に表現しています。白と黒とのバランスが絶妙で、中心になる人物がはっきり分かれます。

○「楽しいいねかり」（南陽市立梨郷小学校五年・浜田ひかり・県農協中央会会長賞）は、いねかりの様子をていねいに描いた作品です。山の斜面につくった田んぼで楽しげに活動している子どもたちの表情が、皆それぞれに生き生きしています。構図のバランスもよく、美しい色合いに仕上がりました。また、稲やくいがけ、遠くのお山々までも線描や点描を生かしながら細かに描いています。一本一本の稲を大切に刈り取った思いがこのように易しく緻密な表現となって現れたのでしょうか。

第三部（中学一年生から三年生）

○「学校での田植え」（米沢市立第六中学校二年・日下部仁美・県知事賞）は、さわやかな季節の中、汗を流して稲を植えている場面がよく描かれています。水面に映る空の青さや自分達の影が透明感あふれる美しい色使いと見事なタッチで表現されています。田の水温や泥の感触と共に初夏の風も感じさせます。慣れない田植えの大変さまで伝わってきます。生徒達の若々しい歓声が聞こえてくるようです。

○「一休み」（山形市立金井中学校二年・木村友美・県農協中央会会長賞）は、農作業の合間に一息ついている場面を描いてくれました。暑い季節の中での大変な仕事の休憩時間、ほっとした安らぎが伝わってきます。自転車やお茶、お弁当など周辺の様子もよく観察しています。絵の具で描いた上から全体的に色鉛筆をのせる手法も効果的に画面を整えています。家族の絆と共に、収穫に向かう喜びも伝わってきます。

県学校奨励賞は、尾花沢市立高橋小学校と昨年に引き続き山形市立金井中学校が受賞しました。おめでとうございます。

また、全国審査の結果、山形市立第九中学校三年・三浦潤平くんの「実りの秋」が最高賞の内閣総理大臣賞を、また同校三年・今野桃子さんの「田植えの時期」が全国農業協同組合中央会会長賞を受賞されました。本当におめでとうございます。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門の作品の特徴は、自然や家庭の中で児童生徒や家族などの人々が、生き生きと活動している場面がほとんどである点です。そこに描かれている人々は表情豊かで温かい雰囲気にあふれ、健康的で生きる力に満ちています。体験を通して得た実感をともに、工夫して表現できる点が、優れた作品を生み出すのでしょうか。今後は、一人ひとりが個性的な表現を目指せる指導がなされることをさらに期待したいものです。

第24回	第23回	第22回	第21回	第20回	第19回
<p>●県知事賞 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●優秀賞 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(榑引町) 田中 麻衣(山形市) 斎藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 安達 千李(三川町) 古川 悠(高島町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 清和 千秋(榑引町) 瀧口 夏子(天童市) 庄司 千鶴(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 本間 明音(鶴岡市) 渡部 大地(朝日村) 有賀真紀子(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 黒坂 雄志(最上町) 竹田実穂子(米沢市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●優秀賞 結城 智裕(最上町) 岸 詩音(最上町) 高橋 隆浩(高島町) 稲葉 彬(天童市) 近野健三郎(高島町) 阿部 晴美(最上町) 小野寺美夏(朝日村) 大谷汐李(飯豊町) 原田 久美(最上町) 田中絵理加(最上町) 結城 重則(東根市) 高橋 愛実(山形市) 佐藤 牧(朝日村) 伊藤 智広(高島町) 本木いづみ(東根市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 三浦 春菜(鶴岡市) 黒坂 星児(最上町) 萩原菜々美(高島町)</p> <p>●県中央会会長賞 大石 美恵(最上町) 菅 喜美広(最上町) 森谷さとり(天童市)</p> <p>●優秀賞 阿部 裕子(尾花沢市) 菅原 南(鶴岡市) 高橋 隆浩(高島町) 加藤 梓(鶴岡市) 藤畑 康宏(最上町) 佐藤 秀樹(最上町) 奥山 恵里(最上町) 石山 崇人(最上町) 阿部 留佳(朝日村) 菅 晃菜(最上町) 島津 智子(高島町) 佐藤真寿美(高島町) 阿部 哲(南陽市) 伊藤 千尋(朝日村) 小川 結(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 高島町立第一中学校</p>	<p>●県知事賞 加藤 梓(鶴岡市) 加賀 知世(尾花沢市) 村山 直美(天童市)</p> <p>●県中央会会長賞 橋本 菜穂(最上町) 原田 久美(最上町) 小座間裕子(天童市)</p> <p>●優秀賞 岸 健一郎(最上町) 山田 寿広(最上町) 大石 美恵(最上町) 後藤 明美(高島町) 近野 健二(高島町) 大場 哲也(最上町) 石山 雄洋(最上町) 石山満理奈(最上町) 佐藤 康德(米沢市) 斎藤真貴子(朝日村) 氏居 生良(山形市) 前田 恵美(山形市) 中嶋 桃子(山形市) 原田 嵐子(天童市) 五十嵐小夜子(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 高島町立屋代小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>●県知事賞 鈴木 裕美(高島町) 堀 文子(酒田市) 高梨 邦拓(高島町)</p> <p>●県中央会会長賞 小松 主音(高島町) 柴田 育恵(大石町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●優秀賞 佐藤 駿佑(米沢市) 吉田 洋平(高島町) 矢口 渡(鮭川村) 大場 智美(最上町) 奥山 恵里(最上町) 鈴木まりこ(山形市) 小山田由起子(河北町) 菅 晃太(最上町) 伊藤理恵子(米沢市) 阿川 麻里(山形市) 東海林 宏(山形市) 中鉢 佳奈(天童市) 佐藤 紘子(朝日村) 清野 美幸(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 高島町立和田小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>●県知事賞 加藤 映(鶴岡市) 菅 晃太(最上町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 奥山 恵里(最上町) 有川 聡美(村山市) 柿崎 真吾(山形市)</p> <p>●優秀賞 赤松かおり(最上町) 佐藤 夏佳(最上町) 岩瀬 直紀(高島町) 菅原由紀(米沢市) 阿部 達也(立川町) 安達 聖澄(山形市) 青山 光(山形市) 奥山 佳希(最上町) 佐藤 一貴(立川町) 荒木 恵(鮭川村) 土屋 秀憲(山形市) 高橋 祐也(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立富沢小学校 山形大学教育学部附属中学校</p>
<p>●県知事賞 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市)</p> <p>●優秀賞 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石町) 結城 弘斗(最上町) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 井上 庸(上山市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 五十嵐祐大(鶴岡市) 菅野 瞳(尾花沢市) 武田 彩子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 西塚 真治(尾花沢市) 今野 里紗(鶴岡市) 長尾 藍(山形市)</p> <p>●優秀賞 小林 由典(白鷹町) 落合 和也(尾花沢市) 木村 和人(鶴岡市) 佐藤 綾子(尾花沢市) 本間 翔太(尾花沢市) 高橋 茉莉(最上町) 大山 美幸(尾花沢市) 赤松かおり(最上町) 工藤 竜也(尾花沢市) 佐藤 伸也(新庄市) 鈴木 裕子(山形市) 友寄 歩惟(上山市) 庄司美智子(上山市) 遠藤真理子(山形市) 遠藤由紀子(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立栄小学校 上山市立北中学校</p>	<p>●県知事賞 本間 裕紀(尾花沢市) 飛渡 沙織(大石町) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 遠藤 美佳(尾花沢市) 渡部 達(朝日村) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●優秀賞 伊藤 由貴(尾花沢市) 渡部みなみ(高島町) 荒木 渚(鮭川村) 横山 浩輔(尾花沢市) 高橋 真美(最上町) 北條 隆大(最上町) 星川 瑠美(尾花沢市) 小野 貴紀(尾花沢市) 高橋 梨絵(最上町) 庄司 修(最上町) 溝越 清美(山形市) 公平 央恵(米沢市) 小野 展裕(山形市) 武田 彩子(山形市) 吉田由紀子(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 渡邊 克也(最上町) 有路 沙織(尾花沢市) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 大山 和(尾花沢市) 高橋 雄太(尾花沢市) 會田 恵里(山形市)</p> <p>●優秀賞 須藤 賢東(山形市) 古瀬 友香(尾花沢市) 伊藤 敏彦(尾花沢市) 岡野 浩美(最上町) 加地華南子(高島町) 花輪みゆき(天童市) 笹原可奈子(尾花沢市) 五十嵐隆介(尾花沢市) 古瀬智佳子(尾花沢市) 武田ゆかり(尾花沢市) 高橋 栄(山形市) 栗原 美穂(山形市) 阿部 誠司(山形市) 丹 奈帆子(山形市) 寺崎 久世(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第五中学校</p>	<p>●県知事賞 大類 祐美(尾花沢市) 白井 靖浩(尾花沢市) 斎藤 明子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 深瀬 美幸(高島町) 岩松 泉(山形市) 有路 奈央(大石町)</p> <p>●優秀賞 森谷 雄太(山形市) 長岡 希(山形市) 小林 龍宏(尾花沢市) 土屋 引一(南陽市) 工藤 誠昭(朝日村) 齋藤 啓(大石町) 加藤 初恵(尾花沢市) 奥山 和泉(尾花沢市) 岡野 咲子(最上町) 渡部 禎子(南陽市) 原田 沙樹(山形市) 池野まり子(山形市) 入間 利恵(高島町) 青柳みちよ(高島町) 阿部 陽一(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立向町小学校 山形市立第四中学校</p>	<p>●県知事賞 伊藤 桃子(尾花沢市) 高橋 裕(最上町) 竹俣 太郎(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 樋口 裕斗(最上町) 高橋 一輝(尾花沢市) 武田由美子(山形市)</p> <p>●優秀賞 荒澤 雄太(山形市) 加藤 浩太(尾花沢市) 向田絵梨子(白鷹町) 白旗 典大(鶴岡市) 安野 妙子(鶴岡市) 大石 圭美(天童市) 長南 清香(朝日村) 鈴木 洋子(尾花沢市) 鈴木 雄太(尾花沢市) 島津 展子(高島町) 松田多恵子(山形市) 佐藤ひとみ(山形市) 奥山 舞(河北町) 奥山 佳子(河北町) 菅原 陽子(大石町)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立向町小学校 山形市立金井中学校</p>

第30回	第29回	第28回	第27回	第26回	第25回
<p>●県知事賞 阿部拓悠真(庄内町) 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 後藤 剛(高島町) 渡部 愛(米沢市) 佐藤 麻衣(山形市)</p> <p>●優秀賞 渡部 由夢(高島町) 阿部 理沙(鶴岡市) 高橋 恵美(最上町) 阿部 貴之(鶴岡市) 齋藤 蓮奈(鶴岡市) 佐藤 彩絵(鶴岡市) 菅野明日香(高島町) 小林 桜子(山形市) 有賀この美(鶴岡市) 佐藤 誠(庄内町) 山口 真盛(鶴岡市) 川田美沙樹(山形市) 今野 若奈(鶴岡市) 榎本有紀子(鶴岡市) 富樫 美穂(南陽市)</p> <p>●学校奨励賞 庄内町立余目第二小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 伊藤 浩司(朝日村) 石山 芽生(最上町) 大湊 希(米沢市)</p> <p>●優秀賞 阿部 貴之(榊引町) 齋藤 玲奈(羽黒町) 阿部 咲輝(朝日村) 佐藤 緑(山形市) 鈴木菜都美(大石田町) 上野由香里(朝日村) 難波 和希(朝日村) 山木 理央(高島町) 香澤 真佑(最上町) 橋本 大来(最上町) 大浦 沙織(高島町) 齋藤 那千(朝日村) 御橋夏津子(鶴岡市) 武田 奈緒(鶴岡市) 清野 郁(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>●県知事賞 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 奥山 雅生(最上町) 守岡 雄朗(鶴岡市) 工藤 瑞徳(東根市)</p> <p>●優秀賞 石山 加奈(最上町) 菅 風沙(最上町) 伊藤 匠平(最上町) 渋谷 生帆(鶴岡市) 清野 真希(鶴岡市) 今井 大輔(鶴岡市) 菅井美香子(村山市) 五十嵐由香(鶴岡市) 大池 響子(米沢市) 阿達 大和(最上町) 稲垣茉里香(長井市) 土方 花重(鶴岡市) 南齋 宏駿(米沢市) 貝田 理沙(山形市) 宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立富沢小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 伊藤佐久磨(朝日村) 小野寺寛貴(鶴岡市) 菅原 香織(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 伊藤 睦美(朝日村) 本間 稚菜(鶴岡市) 安孫子 郁(天童市)</p> <p>●優秀賞 二宮明日香(高島町) 阿部亜紗子(最上町) 大貫 秀平(最上町) 清野 史拓(朝日村) 佐藤 拓夢(鶴岡市) 岸 はづき(最上町) 渋谷 彩希(山形市) 二戸 浩太(最上町) 阿部 貴敏(最上町) 秋野 寛斎(鶴岡市) 松田 恵(南陽市) 川崎 成也(南陽市) 清野 郁(朝日村) 中里恵里香(朝日村) 難波 和宏(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高島町)</p> <p>●優秀賞 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高島町) 後藤なつみ(高島町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(最上町) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 優(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●県知事賞 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市)</p> <p>●県中央会会長賞 森 麻美(榊引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村)</p> <p>●優秀賞 今井 大輔(鶴岡市) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤 真生子(最上町) 齋藤 那千(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 佐藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>
<p>●県知事賞 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市) 日下部仁美(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 大類 海斗(尾花沢市) 浜田ひかり(南陽市) 木村 友美(山形市)</p> <p>●優秀賞 星川 瑞生(山形市) 石山 詩徳(尾花沢市) 新田 尚太(山形市) 笹原浩太郎(尾花沢市) 佐藤つぐみ(鶴岡市) 加賀 東杜(大石田町) 溝越 舞子(尾花沢市) 藤谷 睦姫(鶴岡市) 鈴木 潤(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 遠藤 瑞紀(山形市) 伊藤 茜(山形市) 神田 涼真(山形市) 佐藤 勇太(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立高橋小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 茉純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 笠原 錬(最上町) 難波 沙英(朝日村) 小野紗由季(山形市)</p> <p>●優秀賞 東海林梨奈(尾花沢市) 倉金 卓美(尾花沢市) 柴崎 日向(尾花沢市) 原田 桃香(尾花沢市) 阿部 風子(尾花沢市) 西尾 昂太(尾花沢市) 荘司 留加(尾花沢市) 齋藤 千佳(朝日村) 七森 結花(朝日村) 佐藤 光(温海町) 古関 彰(山形市) 花等 雄太(山形市) 小玉 愛(上山市) 古川 千夏(山形市) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 笹原 瑞紀(尾花沢市) 乙坂ひかり(温海町) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 蛸井 葉月(鶴岡市) 難波 紗矢(朝日村) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 翼(最上町) 高野 陽希(最上町) 木村さえり(鶴岡市) 高橋 龍星(大石田町) 本間 円(尾花沢市) 佐藤真理絵(温海町) 小内 将弘(尾花沢市) 鈴木 結(藤島町) 國分 雅哉(尾花沢市) 須田 琳子(鶴岡市) 日下部まどか(山形市) 設楽なつみ(山形市) 清野 美香(山形市) 伊藤 歩(山形市) 吉田真優美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 温海町立温海小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 荘司 留加(尾花沢市) 伊藤 祐太(尾花沢市) 村上 美紀(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 阿部 行成(鶴岡市) 須田 雄飛(鶴岡市) 武田亜沙美(山形市)</p> <p>●優秀賞 庄司 栞菜(尾花沢市) 村岡 孝一(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 渡部 香菜(朝日村) 佐藤 史彬(高島町) 渡辺 大平(尾花沢市) 菅野 慎也(尾花沢市) 有路 里香(尾花沢市) 古瀬 裕真(尾花沢市) 阿部 貴文(鶴岡市) 古川 知美(山形市) 須貝 恵美(山形市) 高島 香織(山形市) 椎名 俊一(山形市) 鈴木 聖美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>●県知事賞 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 恵梨(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 国分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 昶史(尾花沢市) 安達 美咲(高島町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 田村 里奈(山形市) 村上 美紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●県知事賞 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市)</p> <p>●優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 片岡 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗久佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>

第30回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール審査経過の概要

■応募数

作文：310点
 図画：1,056点 合計 1,366点

区分	第1部	第2部	第3部	計
作文部門	67点	87点	156点	310点
図画部門	523点	496点	37点	1,056点

■審査

(1) 県予選審査期日（各部門開催）

平成17年10月17日(月) 図画部門
 平成17年10月21日(金) 作文部門

(2) 全国コンクールの結果

内閣総理大臣賞2名、全国農業協同組合中央
 会会長賞1名、優秀賞4名（作文部門2名、図
 画部門2名）、学校奨励賞2校

(3) 県審査会期日（作文・図画部門合同で開催）

平成18年1月18日(水)

(4) 入賞作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点
 山形県農業協同組合中央会会長賞 作文3点、図画3点
 優秀賞 作文15点、図画15点
 学校奨励賞 作文2校、図画2校

■審査員

作文部門（5名）

水戸部修治(山形県教育庁義務教育課指導主事)
 三條久美子(上市市立中川小学校教諭)
 大内いずみ(山形市立第十小学校教諭)
 伊藤厚子(山形市立山寺中学校教諭)
 山口香子(山辺町立谷沢中学校教諭)

図画部門（4名）

相田修(山形市立高楯中学校校長)
 大澤哲夫(山形市立第四小学校教諭)
 進藤初美(山形市立南山形小学校教諭)
 笹原聡(山形県教育庁村山教育事務所指導主事)

■表彰式

平成18年2月4日(土)

山形市「オーヌマホテル」

年度	部門	第1部	第2部	第3部	合計
4 (第17回)	作文 図画	212 982	350 767	135 32	697 1,781
5 (第18回)	作文 図画	210 1,276	359 964	217 54	786 2,294
6 (第19回)	作文 図画	167 1,164	330 820	179 53	676 2,037
7 (第20回)	作文 図画	220 781	300 647	138 23	658 1,451
8 (第21回)	作文 図画	201 639	337 507	152 66	690 1,212
9 (第22回)	作文 図画	63 643	229 461	69 40	361 1,144
10 (第23回)	作文 図画	75 907	137 594	117 47	329 1,548
11 (第24回)	作文 図画	108 869	195 450	108 26	411 1,345
12 (第25回)	作文 図画	65 495	122 311	112 9	299 815
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056

●第30回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領●

1. 趣旨

このコンクールは、ごはん食や稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

2. 「作文・図画の課題」「応募資格」

「応募規格（枚数・大きさ）」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

(注) 応募作品は返却いたします。また、作品の著作権は全国農業協同組合中央会に属します。

【課題】(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでのおいしかったことや家族とのコミュニケーション、さらにお米に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。なお、盲学校、聾学校および養護学校の小学部、中学部も上記の小学校、中学校に準ずるものとします。

【応募規格】(枚数・大きさ)

●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙2枚以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰市販原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙4枚以内)

●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生
B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販用紙を使用。画材はとくに制限しません。

※地域によって多少サイズは異なります。

【応募規則】

- 課題にそった作品を対象とします。
- 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
- 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- 学校で応募の際は、別添の応募者明細表を必ず添付してください。
- 作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。

- ①作品の題名 ④学校所在地(郵便番号・電話番号)
- ②氏名・性別 ⑤本人住所(郵便番号・電話番号)
- ③学校名・学年・組 ⑥J A名(農協名)

3. 締切日

平成17年10月7日(金)(必着)

4. 入賞発表

全国発表 平成17年12月上旬
本県発表 平成18年1月下旬

5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

●山形県知事賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書券)

●山形県農業協同組合中央会会長賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書券)

●優秀賞

両部門各部門ごとに5名 計30名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書券)

●学校奨励賞

両部門ごとに2校 計4校
(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書券)

6. 審査員

県教育庁、小・中学校教諭、J A山形中央会

7. 応募先

- (1) 県内の各J Aを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次に問合わせください。

〒990-0042

山形市七日町三丁目1-16

山形県農業協同組合中央会

(J A山形中央会)

農業・農政部

「作文・図画コンクール」係

T E L 023-634-8114

F A X 023-633-1754

8. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。
- (2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の課題		
ふりがな氏名		性別 男・女
ふりがな学校名	立	学校 年 組
ふりがな学校所在地	〒	TEL
ふりがな本人住所	〒	TEL
J A名 (農協名)		

(注) 太い線で囲んだ部分は必ず記入して下さい。ふりがなも必ず記入して下さい。

夏の、暑い日にぼくは見た

三年 伊藤 浩司

じいちゃん本当だ。花さいつたの

をいつばい、に浴びて、今年の夏も大まくなり
ました。ぼくは、なえうえのころから手伝い
をして、清くをしたり、かりとりのいねは
こびをしたりしてました。

「お米つて、いねの束だから、花をくんだ
その見で又ツかい」

そう言われたぼくは、八月の暑い、夏休みの
ある日、田んぼに出てみたのです。

花は、いねのほか出はじめるし、先たんの
方からさいていきます。いつも見なれている
いねのかはが半分にわれていました。(ああ
これでは、米がたやなってしまふ) そう思い
ながらおついでよく見てみると、うすい黄色
の花がらが見えました。中からは、おしべや
めしべも出ているようです。(花だ、たのか
米も、こうやって花をさかせて実っていく人

だなあ。初めてじゅくり見た。続けて見てみ
よう。そう思って、かんさつすることにしま
した。

一本の花がさおわるまでは、三日か
ら四日くらいかかります。花がおわると、そ
れからがらをさして実り始めました。

「まんじ、これ、しぼってみれ」

2

じいちゃんに言われて、又まじはると中から
牛にゅのめうなものが出てきました。これ
が、だんだんかたくなつて米になるのだそ
うです。今は、花をさかせてピン、とのびてい
るいねだけと、この実かみのるにつれて、つ
りさおのようになれてくるのです。

「このもみの中で、知らない間にこんなこと
がおきているんだ。のそいてみたいなあ。」
と考えていると、じいちゃん、

「これがのりぬたいになつてくると、すず
めか食べに来る。だから糸をはるんだぞ」と
言いました。そうだったのか。今年は、糸
はりも手つだつて、実りを待つと思ひます。

内閣総理大臣賞

鶴岡市立朝日小学校三年

伊藤 浩司さん

